

# 「墨田区都市計画マスタープラン」改定区民ワークショップ

平成19年度

## 第4回 ワークショップの概要

### ■第4回ワークショップの概要

◎テーマ：テーマ／分野別の検討のまとめ

◎日時：2007年6月22日 19:00～21:00

◎会場：墨田区役所 13階 131会議室

第4回ワークショップでは、7月に予定されている「区民ミーティング※」に向けて、テーマ毎の検討内容をまとめる作業を行いました。

総勢29名の参加者は、それぞれのグループのまとめに向けて、新しい提案を検討したり、これまでの内容を確認したり、まとめの地図をつくったりといつも以上に熱心に作業を行いました。これをもって半月に1回のペースで進めてきた平成19年度の活動も一区切りとなるとあつてか、発表にも力が入り、終わりの時間が延びるほどでした。

※これまで検討してきた内容について、ワークショップメンバーとワークショップに参加していない地域の方が意見を交換する拡大版のワークショップです。

### ■当日の流れは・・・



区民ミーティングの開催と  
まとめ作業に関する説明がありました



「足りない部分はありませんか」



まとめの地図をつくっています



これまでの検討成果である模造紙を並べて  
発表の予行演習です

### ■次回の予定は・・・

それぞれのグループが地域の会場を使って「区民ミーティング」を開催します。

(注) ワークショップは事前に参加登録をさせていただいた方にお集まりいただき、これからのまちづくりと20年後の墨田区の将来像について検討しています。参加登録をしていないけれどもワークショップの内容や検討中の案に対するご意見・ご感想・お問い合わせなどがあるという方は [toshikeikaku@city.sumida.lg.jp](mailto:toshikeikaku@city.sumida.lg.jp) (墨田区都市計画課) までご連絡ください。

■Aグループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎Aグループ：荒川沿いの墨田・八広地区に堤通・東向島地区の一部を加えた、概ね明治通り以北の区の北端部に位置するエリア



Aグループでは、残る幹線道路沿道のまちづくりについて、第2・3回で検討した路地のまちづくりと同様に、道路、建物、敷地（外構）、緑という視点から検討を進めました。

～幹線道路沿道のまちづくり～

○大通りの高いマンションが路地の生活を阻害しているのでは・・・

⇨幹線道路のマンション居住者は路地の居住者の家族も多い／親子の近居に役立つ面がある

⇨平成16年に高度地区が導入されて、一定以上の高さの建物は建たなくなっている

⇨火災時には延焼遮断の効果もある

～路地と幹線道路沿道／マンションを融合し、一体感のある住みやすいまちにしていこうために～

<道路>

- 建て替えにあわせて歩道を広くできないか
- 植栽の植え方により歩くスペースを広くする
- 国道は電線地中化

<建物>

- 1階スペースを利用する
- ワンルームマンション＋集会所
- 1階のコンビニは新住民の生活に不可欠

<敷地（外構）>

○景観上重要なところを考えることが大事

<緑>

- 並木道をつくる（路地の小さな緑と一体的に）
- 住民が自ら管理する／道路のアダプト制度
- 建物を緑で隠す

Aグループ

第3回ワークショップ（2007.6.7）

	①幹線道路に面したまちづくり	②幹線道路の内側のまちづくり→路地
道路	<p>歩道 （車道）</p> <p>車道 （歩道）</p> <p>国道は 電線地 中化</p>	<p>○2m～4mは『道路1』、2m未満は『路地』</p> <p>○『道路1』は月島ルールを参考にする。（地区計画）</p> <p>○舗装はバリアフリーに配慮。芝にする、etc.</p> <p>○車は、時間規制・一方通行等、条件付きで通れるようにする。 →車の不便は我慢する。</p>
建物	<p>建物の 高さ化 →</p> <p>高層ビル （H16）</p> <p>高層ビル （H16）</p>	<p>○歴史を感じられるものを地域の中につくる。一区集会所等</p> <p>○道路幅に対応した建物高さを決める</p> <p>○色の調和・統一 →屋根の色を統一するだけでも良くなる。</p> <p>○軒を付ける。</p> <p>○『～風』には疑問あり。</p>
敷地（外構）	<p>敷地 （外構）</p>	<p>○樹は原則つからない。（つくるなら生け垣・植栽）</p> <p>○緑の活用</p> <p>↓</p> <p>↓</p>
緑	<p>緑 （植栽）</p> <p>緑 （植栽）</p>	<p>○工場一建て売り住宅・マンション等一住民の変化がある。（地域で活動していない）</p> <p>○ベッドタウンとしての住みやすさ。</p> <p>○高齢者が安全に歩ける、身近で買い物できるまち。</p>
町（街）の変化		

向島モデル（スミダ村、テラジマ村、アズマ村）

■Bグループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎Bグループ：東向島・向島・京島といった密集市街地のまちづくりと曳舟・押上・業平橋といった大規模開発が並んだ区の中央部に位置するエリア



Bグループでは、新タワーに直接的に関連する内容がこれまでのあまり出ていなかったため、特に重要なこの課題について検討を行いました。また、これまでの検討内容を地図にまとめ、提案箇所などを確認しました。

～新タワー周辺のまちづくり～

○タワーのすぐ周りは色々と計画もある

⇒タワーに向かう道、タワーに来た人を周辺のまちに導く道が必要

⇒これまで検討してきた地区内の回遊路に繋げる道を

～タワーの発展にあわせて周りもうまくやっていくために～

<新タワーへの参道>

○エッフェル塔へ向かうシャンゼリゼ通りのような道があると良い

○タワーへ向かう道が何本か放射状に必要

○曳舟川通りを水の流れる川に再生するなど楽しい・面白いものに

○新タワーの眺め（ヴィスタ）が重要

<地区内の回遊路>

○地藏坂通りなど歴史ある道を味わいのある、歩きやすい道に（第2・3回検討事項）

○幸田露伴など文人の住居跡を再現し、道沿いのポイントに

○亀戸線を通勤通学だけでなく観光にも使われる電車に（車両を変える／間の駅を復活する）



■Cグループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎Cグループ：小村井、東あずまの2駅を中心に広がる立花・文花地区に旧中川で結ばれた東墨田地区を加えた、区の東端部に位置するエリア



Cグループでは、これまで検討してきた分野別の方針とそれぞれの関係を図にまとめ、強調したい内容や不足する事項などについて確認しました。区民ミーティングではこんなことを逆質問したいといった意見もありました。

～検討内容の方向性の確認～

- まちの活性化・地域に人を集める
- イベントやグループ活動が大事（→人を集める／共同作業をきっかけとしたコミュニティづくり）
- 拠点と周辺のまちとの“つながり”をつくるためには
  - 川を使う（舟の利用）
  - 京島につなぐ道を整備する／明るく歩きやすい道が大事（防犯）

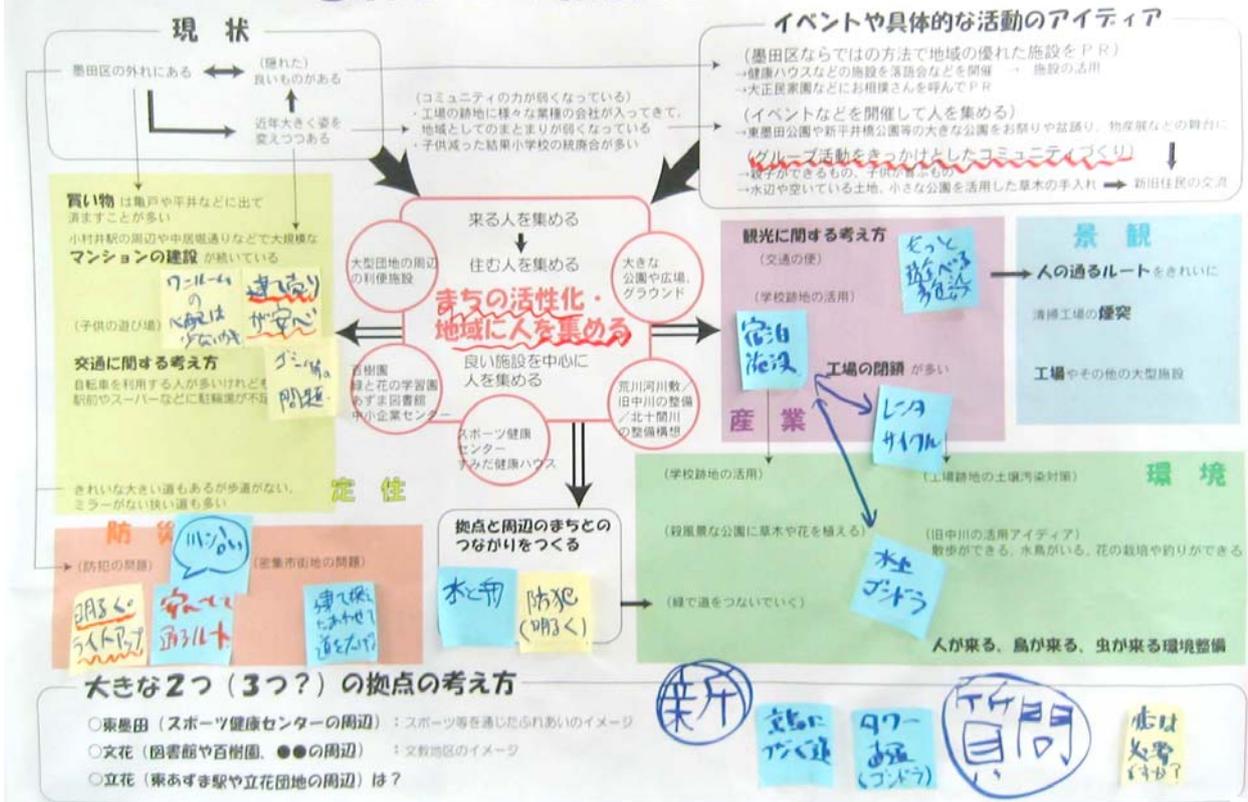
～住む人を集めるためには～

- <定住（ワンルームマンションへの対応）>
- ゴミなどの問題が一番大きい
- この地域は建て売りが多いので比較的安心では
- <防災・防犯>
- 安心して通れるルートをつくろう
- 明るくライトアップ／川沿いのルートがよい
- 建て替えにあわせて道を広げる

～来る人を集めるためには～

- <産業（観光）>
- 旧木下川小学校を宿泊施設に
  - 観光客向けのユースホステル
  - 親子の環境体験学習
- 宿泊施設からの／までの交通手段を
  - レンタサイクル
  - 新タワー直通の水上 Gondola（北十間川～旧中川）

～これまでの検討内容のまとめ～



■D1グループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎D1グループ：両国駅周辺から、両国・本所・吾妻橋にわたる、概ね北を北十間川、東を大横川親水公園までを範囲とするエリア



D1グループでは、住むには良い地域であることを改めて確認し、観光客のために何をすべきかということを中心に話し合いました。他には、これまであまり時間を割いてこなかった防災面に関する検討も行っています。

～主に住んでいる人に向けた内容～

<定住分野・環境分野>

- 何処に行くにも便利
- 街並みもきれいに整備されている
- 碁盤の目の道路の使い方を見直す（提案済）  
→直線の道路を変化のある曲がりくねった道に（植栽の植え方を工夫する）
- 緑町公園のようなきれいな公園がもっと増える  
と良い

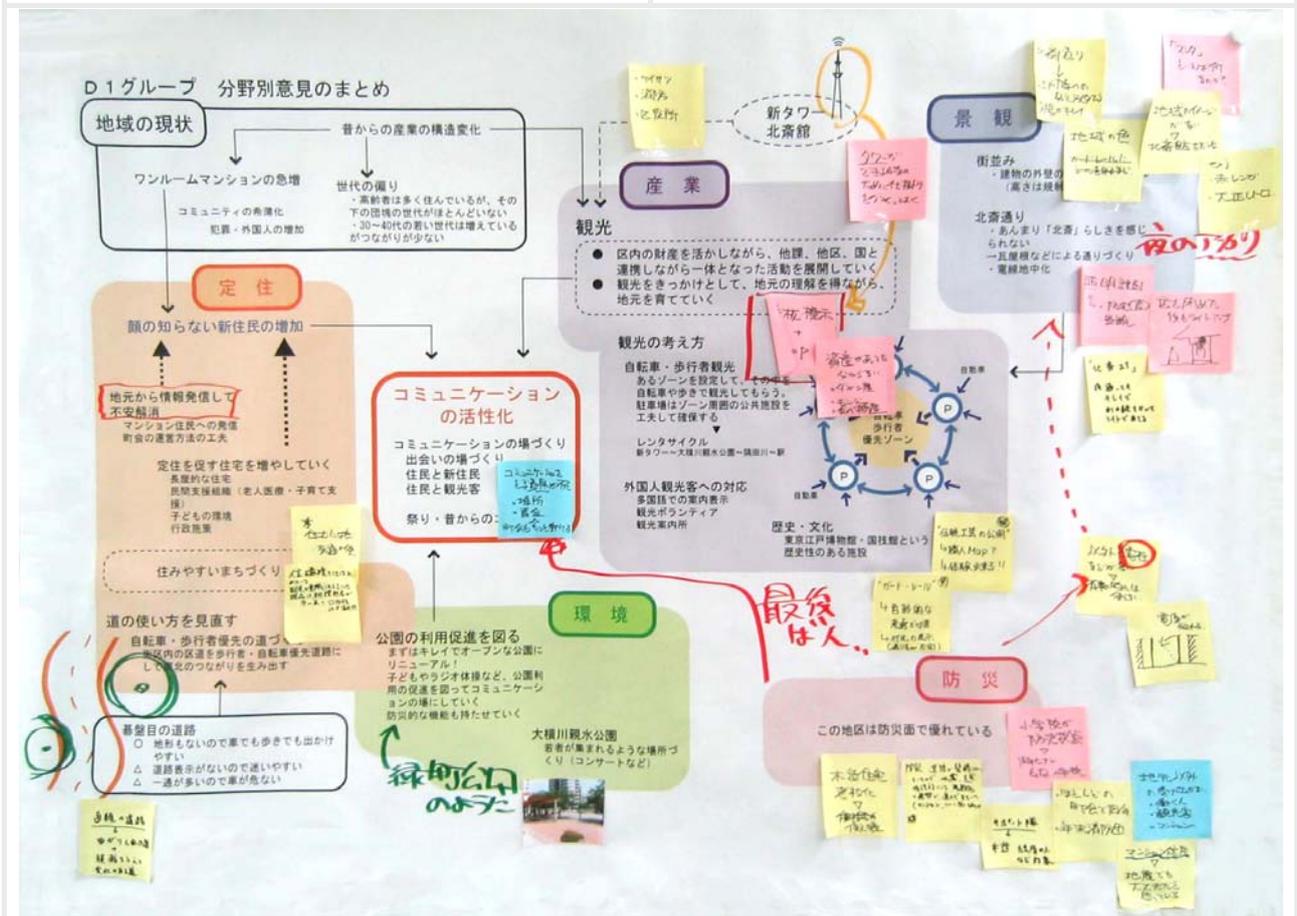
<防災分野>

- いざという時に頼りになるのは地域
- 日常からのコミュニケーション/マンションも地域に加盟するよう行政の指導ができないか

～主に観光客に向けた内容～

<産業分野・景観分野>

- 分かりやすい地図・案内がない  
→ガードレールなどを利用して案内板機能を持たせることができないか
- 明かりや色彩の工夫も重要  
→街路灯の色をきれいなものに変える（防犯も役立つ色に）  
→閉店後もショーウィンドーをライトアップする
- 北斎通りが1つのポイント  
→北斎通りから江戸博のバックに眺める夕日がとてもきれい  
→他の場所でも北斎通りのように電線の地中化を進める



■D2グループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎D2グループ：錦糸町駅周辺から、錦糸・業平にわたる、概ね北を北十間川、西を大横川親水公園までを範囲とするエリア



D2グループでは、第3回ワークショップで内容の確認と補強を行った分野ごとに提案をまとめた表を使って、特にアピールしたい部分をさらに検討することにしました。ソフト面の取り組みについても多くの意見が出ました。

～歩いて楽しい歩行者ルートの創出～

- 歩きやすいまちづくり→顔の見えるまち
- 建築デザインや街角の工夫（提案済）
- 歴史や産業を感じるアクセント（提案済）
- 自転車通行ルート／自転車の沿道パーキング機能

～連続するアメニティの創出～

- 大横川親水公園から面に広げる
- 橋の間の区間ごとにテーマを決めて整備
- 川沿いのマンションを緑化でカバーする
- ビオトープに

～川の手らしさをいかした防災・環境整備～

- 震災記念堂の充実
- 防災意識を高める取り組み（震災復興模擬訓練）
- 水の浄化
- 水を身近に感じる仕掛け

～新旧住民のコミュニケーションと地域の支え合い～

- ここなら安心と思えるような仕組みづくり
- 高齢者の生活サービス／主婦の仕事づくり
- 出会い・触れあいから防犯・子供ケアに
- 親水公園を舞台にして若者を集めるイベントを
- 共同住宅には集会所を付置義務にしよう

「楽しく歩ける街をつくる」…安全・安心に歩ける。顔の見える街  
以下、「ヤリたい」の色彩実現に向けてのソフト面

	防災	定住	環境	景観	産業
道	●特設区画の地域財産としての保全(防災機能) ●歩行者優先の歩道確保 ●自転車専用レーン(歩道内) ●駐輪場(駅前、公園...) ●建築デザインや街角の工夫(歴史や産業を感じるアクセントのある街づくり)	●自転車利用の多さに対応した専用道の確保 ●人と環境にやさしいコミュニティバスの導入	●歩道や自転車専用レーン(歩道内)の確保 ●歩行者優先の歩道確保 ●自転車専用レーン(歩道内) ●駐輪場(駅前、公園...) ●建築デザインや街角の工夫(歴史や産業を感じるアクセントのある街づくり)	●歩道や自転車専用レーン(歩道内)の確保 ●歩行者優先の歩道確保 ●自転車専用レーン(歩道内) ●駐輪場(駅前、公園...) ●建築デザインや街角の工夫(歴史や産業を感じるアクセントのある街づくり)	●コミュニティバスや歩行者ルートによる観光資源をめぐるネットワーク
歴史	●震災記念堂の充実 ●防災意識の向上 ●歴史や産業を感じるアクセント	●歴史文化とのつながりを持った定住環境の確保 ●地域への愛着に結びつける歴史資源の活用(宇立郡) 赤松、大横川	●歩道や自転車専用レーン(歩道内)の確保 ●歩行者優先の歩道確保 ●自転車専用レーン(歩道内) ●駐輪場(駅前、公園...) ●建築デザインや街角の工夫(歴史や産業を感じるアクセントのある街づくり)	●歩道や自転車専用レーン(歩道内)の確保 ●歩行者優先の歩道確保 ●自転車専用レーン(歩道内) ●駐輪場(駅前、公園...) ●建築デザインや街角の工夫(歴史や産業を感じるアクセントのある街づくり)	●震災記念堂の充実 ●防災意識の向上 ●歴史や産業を感じるアクセント
店の賑わい	●川の手洗いと防災機能(環境問題への貢献)	●職住近接性を活かしたコミュニティ再生(コミュニティ劇場が職住近接の地場産業を促進させた) ●マンション1階部分に商店街誘導による活性化	●高齢者の生活サービス(コミュニティバス) 生活支援センター →コミュニティバス	●歩道や自転車専用レーン(歩道内)の確保 ●歩行者優先の歩道確保 ●自転車専用レーン(歩道内) ●駐輪場(駅前、公園...) ●建築デザインや街角の工夫(歴史や産業を感じるアクセントのある街づくり)	●職住近接性を活かしたコミュニティ再生(コミュニティ劇場が職住近接の地場産業を促進させた) ●マンション1階部分に商店街誘導による活性化
川	●公園等に利用可能な貯水機能(設置が難しい防災用井戸に代わる貯水機能) ●雨水利用(路地等の導入は難しいが、初期消火や飲み水確保が可能)	●水と緑を活用した墨田区の特徴出し(川の畔の地域性の発信)	●緑系町周辺から東京タワーを眺め歩いて楽しむ水辺イメージの創出(大横川親水公園) ●自然の少なさを補完する豊かな緑やせせらぎの創出(大横川親水公園) ●水質の浄化対策(小川、大横川) → ビオトープ(エシメントン)	●歩道や自転車専用レーン(歩道内)の確保 ●歩行者優先の歩道確保 ●自転車専用レーン(歩道内) ●駐輪場(駅前、公園...) ●建築デザインや街角の工夫(歴史や産業を感じるアクセントのある街づくり)	●公園等に利用可能な貯水機能(設置が難しい防災用井戸に代わる貯水機能) ●雨水利用(路地等の導入は難しいが、初期消火や飲み水確保が可能)
その他	●マンション居住者と連携した防災防犯体制の整備(モデル活動による区全域への波及) ●本所消防署、消防学習館、錦糸公園など防災機能の集積を活かした防災意識の啓発と情報発信 ●個人レベルの行動力が高まったネットワーク化 ●介護：介護福祉、地域共生、不登校、エコー室、地域連携 ●新旧住民のコミュニケーション(女性の行動力がカギ)	●世代を超えて住み続ける仕組みづくり(3階建てへの更新による空間的広がり確保など) ●マンション居住者を地域に定住させる仕組みづくり(ワンルームマンションの適切なコントロールなど) ●既存居住者が新住民へのアプローチ(声かけ、つなぐ場となるキーマン) ●新住民と町会との橋渡し(コミュニティセンターを通して、子供よりの教育、分種の活動、生きがいの共有を分かち合う) 1階のワードの出口	●緑系町周辺から東京タワーを眺め歩いて楽しむ水辺イメージの創出(大横川親水公園) ●自然の少なさを補完する豊かな緑やせせらぎの創出(大横川親水公園) ●水質の浄化対策(小川、大横川) → ビオトープ(エシメントン) ●ホームレス対策(横川川沿い、大横川親水公園)	●歩道や自転車専用レーン(歩道内)の確保 ●歩行者優先の歩道確保 ●自転車専用レーン(歩道内) ●駐輪場(駅前、公園...) ●建築デザインや街角の工夫(歴史や産業を感じるアクセントのある街づくり)	●個人レベルの行動力が高まったネットワーク化 ●介護：介護福祉、地域共生、不登校、エコー室、地域連携 ●新旧住民のコミュニケーション(女性の行動力がカギ)

相水公園中心!

■D3グループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎D3グループ：菊川・立川・緑を中心とする、概ねJR線路または豎川／首都高速道路以南の区の南端部に位置するエリア



D3グループでは、前回に引き続き道路の使い方について検討したほか、メンバーの関心の高かった両国駅に関する内容、豎川の活用に関する内容について話し合いを行い、提案をまとめました。

～生活道路の確保～

- 戦前から比べると道路がきれいになって明るく 雰囲気が変わった
- 今後はこの基盤の目状の道路を
  - 住んで楽しい、住みやすい道路に
  - 車だけでなく生活者が安心して通れるような生活道路に
- ⇒道路と歩道の比率を見直す必要がある
- きれいにデザインされた大きな道路とは別に、比較的細い道路では実験的な取り組みを
- ⇒ヒューマンスケールの道に／緑を増やす

～両国駅とその周辺～

- グループの対象地域からは外れるが重要な場所
- 駅北口を賑やかに／大江戸線との連携向上を
- 高いビルや古い家が混在している
- 今後は極端に高い建物は控えるようにしたい
- ～豎川の活用～
- 高速道路がかかって印象が悪い
- 大横川は整っているが地域の中心となる場所にあるのは豎川
- ここを起点にまちづくりを考えてはどうか
- 使い方のアイディアコンペを地域で開催したい

